

1. 研究目的

血液製剤の使用という新たな観点から医療機関を分類し、各カテゴリーの平均的使用量を明らかにし、もって各医療機関における血液製剤の使用適正化の活動に対する到達目標を与える事を目的とする。

2. 研究方法

- 調査対象 全国 8110 病院
調査時期 平成 16 年 2 月～3 月
調査内容 1. 病院の状況（病床数，救命救急センターの有無，手術件数，血漿交換件数，人工透析ベッド数等） 11 項目
2. 輸血部門の管理体制 9 項目
3. 血液製剤の副作用対策，適正使用対策 12 項目
4. 血液製剤の年間使用状況 7 項目
分析方法 回収した調査結果を入力し，病床数別血液製剤使用量，血液製剤管理体制別血液製剤使用状況を統計的に分析した。血液製剤使用量は平成 14 年度 1 年間の使用量を用いた。

3. 研究結果

回収率 8110 病院に調査票を送付し，3397 病院から回答があった（回収率 41.9%）。血液製剤の使用なし，一般病床が 20 床未満，回答不備の 825 病院を除くと有効回答は 2572 病院であった。

病床規模別有効回答病院数

a 20- 99床		b 100-199床		c 200-299床		d 300-499床		e 500床以上		合計	
数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
1140	44.3	534	20.8	271	10.5	391	15.2	236	9.2	2572	100.0

一. 血液製剤の標準的な使用量検討のための基礎資料

病院機能分類別血液製剤使用量

病院機能分類は ①救命救急センターの有無 ②全身麻酔下手術件数 2000 件以上/年・千床，2000 件未満/年・千床，無し ③心臓手術の有無 ④造血幹細胞移植の有無 ⑤血漿交換の有無 の組み合わせとし，それぞれのパターンの血液製剤の使用量（赤血球 MAP，新鮮凍結血漿，血小板製剤，アルブミン製剤，グロブリン製剤）を各病院の一般病床 1000 床当りに換算した。病院機能分類 1～5 の中には欠損値があるためその組み合わせの使用できる施設は 2290 施設となる。

血液製剤使用量と病院機能との関連

1. M・A・P 総使用量と関連する因子

目的変数：千床当M・A・P総使用量

説明変数	P	標準偏回帰係数
Intercept	<.0001	0
一般病床数	<.0001	0.16611
千床当全身麻酔下総手術件数	<.0001	0.16175
千床当心臓手術件数	<.0001	0.21757
千床当造血幹細胞移植数件数	<.0001	0.16766
千床当臓器移植数件数	0.7836	0.00567
千床当血漿交換件数	0.0061	0.05253
千床当血液疾患患者1日入院数	<.0001	0.13081
千床当血液透析ベッド数	<.0001	0.11781

P<.0001, 1997件
R-Square 0.2873; Adj R-Sq 0.2844

千床当たりのM・A・P総使用量との関連を多変量解析の手法を用いてみると、「千床当全身麻酔下総手術件数」、「千床当心臓手術件数」、「千床当造血幹細胞移植件数」、「千床当血液疾患患者1日平均入院数」「千床当血液透析ベッド数」は危険率0.01%以下で有意差があった。

2. FFP 総使用量と関連する因子

目的変数：千床当FFP総使用量

説明変数	P	標準偏回帰係数
Intercept	0.0081	0
一般病床数	<.0001	0.26185
千床当全身麻酔下総手術件数	<.0001	0.13021
千床当心臓手術件数	<.0001	0.28498
千床当造血幹細胞移植数件数	0.0033	0.06445
千床当臓器移植数件数	<.0001	0.16194
千床当血漿交換件数	<.0001	0.11263
千床当血液疾患患者1日入院数	0.1136	0.03146
千床当血液透析ベッド数	0.0927	0.03233

P<.0001, 1739件
R-Square 0.3776; Adj R-Sq 0.3747

千床当たりの FFP 総使用量との関連を多変量解析の手法を用いてみると、「千床当全身麻酔下総手術件数」、「千床当心臓手術件数」、「千床当臓器移植件数」、「千床当血漿交換件数」は危険率0.01%以下で有意差があった。

3. PC 総使用量と関連する因子

目的変数：千床当PC総使用量

説明変数	P	標準偏回帰係数
Intercept	0.2452	0
一般病床数	<.0001	0.13224
千床当全身麻酔下総手術件数	0.0554	0.03329
千床当心臓手術件数	0.0005	0.05682
千床当造血幹細胞移植数件数	<.0001	0.47297
千床当臓器移植数件数	0.0080	0.04562
千床当血漿交換件数	0.3783	0.01404
千床当血液疾患患者1日入院数	<.0001	0.34688
千床当血液透析ベッド数	0.9388	0.00123

P<.0001, 1705件
R-Square 0.5775; Adj R-Sq 0.5755

千床当たりのPC総使用量との関連を多変量解析の手法を用いてみると、「千床当造血幹細胞移植件数」、「千床当血液疾患患者1日平均入院数」は危険率0.01%以下で有意差があった。